

キイロスズメバチの巣



写真1

2012年1月28日（土）、植木屋さんの手によって巨大なスズメバチの巣が、取り除かれた。校庭のイチョウの樹の **てっぺん付近の枝** に営巣していたものだ（写真2の○印の位置）。高さ10mはあるだろうか。翌日、栃木県立博物館に現物を持ち込み、調べてもらおうと、「キイロスズメバチ」の巣（直径約40cm、高さ約60cm）であることが判明した。

巣の崩れた部分から内部を見ると、何層にも重なる巣盤がある。各巣盤には子が育つ育房があり、巣全体ではその数は千を超えるかもしれない（写真3）。巣を持ち上げてみると、**あまりの軽さ**に野中君（1ー3）もびっくり（写真1）。巣の材料は、枯れ木などの木の繊維を唾液で固めたもので、一種の**紙のようなもの**だ。そして、中は **もめけの殻**…。

秋の終わりにになると、次世代の新女王バチとオスバチは巣から外へ飛び立つ。新女王バチは交尾をした後、朽木などの中で**冬眠**に入り、それ以外の全ての個体は **寒さで死に絶える**ので、巣は空き家となるのである。しかし、新女王バチといえども、春まで生き残れるものはごくわずかである。春、冬眠から目覚めた女王バチは、自ら巣を造り卵を産み育て、数百から数千の子孫（働きバチ、新女王バチ、オスバチ）と巨大な巣を造り上げ（実際に造るのは働きバチ）、死んでいくのである。

この巨大な巣は、一匹の女王バチとその子孫たちが確かにそこにいた記録でもある。そして、新たな生は今、近くの木々の傍らでひっそりと眠りにについているのであろう。



写真2

巣があった場所



写真3

巣の内部の様子

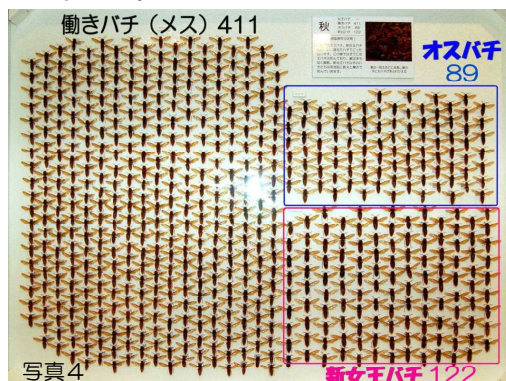


写真4

巣の中のハチの構成（県立博物館資料）